

<先週の説教から>

『ルカ ⑩— 主の律法にあるように』

武田真治牧師

レビ記 12:1~8 ルカ福音書 2:21-32

クリスマスの出来事を読むと、イエス様は聖霊によって特別な生まれ方を為されたことが記されています。そうであるなら、その後のお育ちもまた特別な出来事が続くのではないかなと予想するのですが、そうではなく「八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である」と、当時のユダヤ人の子供と同じ育て方がなされています。そのことは「イエス(=主は救い)」という名前にも表れています。なぜなら、当時この名はよく使われており、何ら特別な名前ではありませんでした。しかもこの名を「天使」が示したのですから、むしろ一般の人達と同じような育て方を「天」が望んだと言っても差し支えないのです。マリアとヨセフもそれに呼応して、当時の「律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレム神殿に連れて行った」と、ユダヤ教の律法や社会の慣習に従おうとしている様子を見る事が出来ます。イエス様が特別な「生まれ」を為された方だからこそ、その「育ち」は置かれている社会状況の中で、ということなのかもしれません。

ただ、だからこそ、その三人が入ったエルサレム神殿で、「シメオンとハンナ」の二人に出会うことが出来たのでした。この点を聖書は「霊」に導かれて」と記しています。あたかも、律法や習慣に従っているだけの行動も、ちゃんと神様は“ご計画の中に”入れておられたということでしょう！

特にシメオンは「主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない」という預言を受けていた人物でした。故に、もし両親が神殿にイエス様を連れて来なければ、彼はどうなったのでしょうか。神様の導きは私たちの予想を超えるのです！

神殿の中でイエス様と出会ったシメオンは、この方こそ“メシア=救い主”であると気づき、その「幼子を腕に抱く」のでした。その時の彼の喜びと満足感はいかばかりだったのでしょうか。彼はそのまま「神をたたえて言った。『主よ、今

こそあなたは、お言葉どおり、この僕(=自分)を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救い(=イエスという名前と繋がる)を見たからです。』と語ったのでした。これは神様を讃美する歌と言ってよいでしょう。後のキリスト教会は、このシメオンの歌を、その最初の言葉を取って《ヌンク・ディミティス》(=今や去り行く)と呼んで様々な機会に“讃美歌”として歌って来ました。クリスマスだけでなく、晩祷や聖餐式にも用いられています。その理由は、神様が自分に与えてくださった“救いの出来事”を「見た=目撃した」ことに満足して「安らかに去る(=死ぬ)」ことが出来るという信仰の確信を告白する言葉としてです。

一日一日、礼拝ごと、聖餐式ごとに、救いを確信させられて、この後にたとえ「世を去る」ことになっても“大丈夫・悔いはない”と一期一会に生きる者でありたいです。

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 7月17日(水) 20:00
II. 7月18日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 婦人会を覚えて
担当者: (水) 真田 (木) 細川
祈りに覚える人: 岩井さん 岩井さん
ハンナの会: 7月16日(火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男18 女56 計74
祈禱会 I. 男6 女2 計8 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科5 小中科8 計13

【次週主日礼拝】 7月21日(日)

聖書: イザヤ書 56:6~8
ルカによる福音書 2:28~38
説教: 「ルカ⑩—異邦人を照らす啓示の光」
武田真治 牧師

讃美歌: 207(1)、32、358、549、
443、92(1)

【次週当番表】
司式: 相浦長老 奏楽: 村上 礼拝: 保坂長老
献金: 三箇 鄭 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 木村 小杉 富澤 長田
橋本 北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・オリブの葉編集委員会 日曜学校教師会
・幼稚園理事会

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 7月 14日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL.& FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>